

1-2 計画策定の体制

本計画の策定にあたっては、伊奈町教育委員会生涯学習課を事務局とし、学識経験者、土地地権者及び地元関係者、行政関係者から構成される「伊奈氏屋敷跡保存活用計画策定委員会」（以下「策定委員会という」）を設置して検討を行った。

また、策定委員会では、埼玉県教育局市町村支援部文化資源課から指導・助言を得た。

■伊奈氏屋敷跡保存活用計画策定委員会 名簿

委員

氏名	分野・所属
和泉清司 ◎委員長	近世史学（高崎経済大学名誉教授）
田中 信	中近世考古学（川越市立博物館館長）
窪田陽一	都市計画・景観計画（埼玉大学名誉教授）
細田 浩	植物・地質（町文化財保護委員・國學院大學講師）
関田誠一	地元代表
永田誠一 ○副委員長	地元代表
柴崎篤房	忠次友の会会長
町田伸吉	商工会会長
大塚健二	観光協会副会長（平成28年度 鯨井利男）
小平 進	企画総務統括監（平成28年度 野本初美）
新井 勉	教育次長

指導・助言

氏名	分野・所属
栗岡真理子	埼玉県教育局市町村支援部文化資源課主幹

事務局

氏名	分野・所属
小林薫子	生涯学習課 課長（平成28・29年度 辻本一也）
大塚健司	生涯学習課 課長補佐（平成28・29年度 本多史訓）
小杉秀幸	生涯学習課 文化財・町史係 主任
安達薫広	同上 主事
大澤美南子	同上 主事
岸 清俊	生涯学習課 町史編集調査員
佐藤 匠	同上（平成30年度のみ）

コンサルタント

氏名	分野・所属
菅野 進	有限会社歴史環境研究所

1-3 他計画との関係

伊奈町総合振興計画

総合振興計画では、「第3章 豊かな心を育むまちにくらす、第6節 生涯にわたる学びの支援とスポーツの推進、第4項 文化財及び町史（古文書等）の保護・保存・活用」のなかで、次のように位置づけられている。

指定文化財については、地権者の理解のもと保護に努めるとともに、調査・研究及び新たな指定を進め、広く公開・活用することで文化財への理解を深めます。また、宅地化などの開発に対応し、埋蔵文化財の適正な保護を図るとともに、所蔵資料の適切な保存・活用を図ります。

■主な事業・取組■

- 史跡「伊奈氏屋敷跡」の歴史的資源として適正な保全・活用
- 所蔵資料の適切な保存・活用
- 郷土資料館の整備・充実・活用
- 文化財の適正な保護・調査活動及び啓発普及
- 歴史公文書の整理・保存及び町史の編さん

伊奈町都市計画マスタープラン

地域別構想

栄・綾瀬地区は、町の中でも早く都市基盤の整備された住宅市街地が形成された地域であり、緑豊かな伊奈町の特徴をアピールする地域でもあります。また、郷土の歴史や水辺空間とのふれあいの場でもあり、伊奈町を印象づける都市づくりを目指します。

◆都市づくりの目標

「文化と豊かな緑につつまれた 安全で安心して暮らせる地域」

○沿道活用ゾーン

都市計画道路伊奈中央線の整備を完了するとともに、沿道の土地利用を図っていきます。

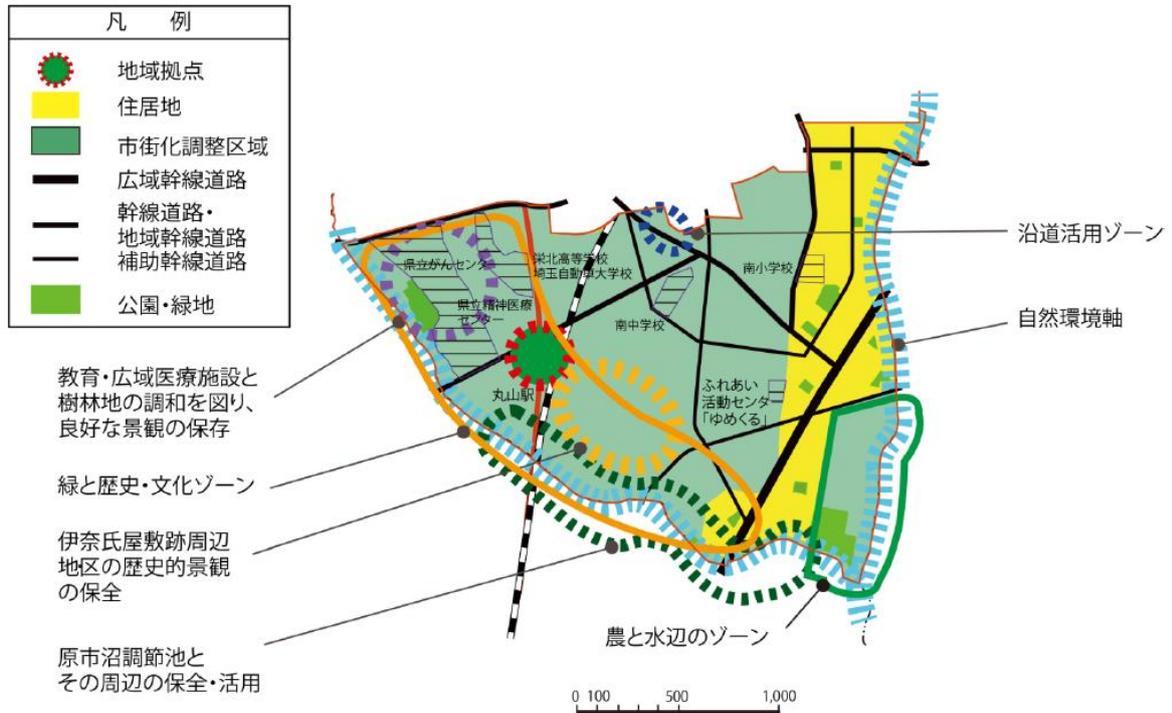
○農と水辺のゾーン

綾瀬川流域の田園空間を保全・活用し、人々が安らげる空間を形成します。また、綾瀬川や原市沼川の景観や水辺環境に配慮し、潤いのある空間づくりを図ります。

○緑と歴史・文化ゾーン

県指定史跡伊奈氏屋敷跡や原市沼調節池を活用し、歴史や自然環境との関わりを深めることができる空間を形成します。

■南部地域構想図（『伊奈町都市計画マスタープラン』H28.3）



また、主要施設の整備のなか、公園緑地では次のような方針に基づき整備を進めます。

- ・ 県指定史跡伊奈氏屋敷跡、原市沼調節池の水辺を活用し自然と文化にふれあえる公園的な空間の形成を図ります。
- ・ 安心して暮らせる都市を目指し、町地域防災計画と連携し、災害時における避難場所としての機能を確保します。
- ・ 公園については、町民のニーズにあわせたりリニューアルを行い、多くの人に利用される公園を目指します。